

健友俳壇 第二十二回

(令和七年一月)

健友俳壇は、会員の皆様が気軽に参加できる事業として、会報第72号（平成26年7月号）から掲載が始まり22回目となりました。今回は、秋の「健友旅行」が実施されました。

「一般の句」39句、「旅の句」16句の投稿があり、板橋区俳句連盟の上田 桜（うえだ さくら）氏に選句と講評をいただきました。

一般の句

●特選（二句）

秋まつり 終えて静かに 神輿倉 みこしぐら

秋祭り後の静寂さと厳しさが、神輿倉に集約されている。

初雪が 降るか降らぬか 本屋まで

初雪が降りそうな気配の中、本屋まで出掛けるといふ。

このような気配を雪催という。

菊川 雄二

武居 正次

●入選（四句）

石落^{つわ}の花 母の入院 長くなり

母親の入院が長引いている。

石落の花を見ながらふと胸をよぎるのはやはり母親の病気のことである。

散歩道 ねころ草取り 遊ぶ子ら

猫じゃらし、狗尾草のことをねころ草という。地方の呼び方。散歩しつつ

ねころ草を取り遊ぶ子ら。添削 ねころ草取りつつ遊ぶ散歩道

松本 加代美

化粧品 買って笑顔に 秋の部屋

添削 化粧品 買って笑顔の 秋の部屋

日野原 志津江

秋の道 平和を祈る 地藏尊

秋らしくなってきた道すがら、お地藏さまを見た、地藏尊の両手がまるで

平和を祈っているかのように思えた。

吉田 誠

健友旅の句

●特選（二句）

紅葉に はえる富弘 美術館

良くできています。

久田 恵津子

石落^{つわ}（つわ）咲いて 臨江閣を 仰ぎ見る

季語と臨江閣の取り合わせが良い。

宮川 修一

●入選（三句）

臨江閣 いにしえ人と 秋思う

田村 弘浩

臨江閣のかつての人々と秋を感じとっている。

薄紅葉 上州道の 夕日かな

細井 榮一

下五を変えると更によりくなります。添削 ♪ 入日かな

陽光に 映える紅葉の グラデーション

瀬川 恵美

添削 ♪ 陽光に ゆれて紅葉のグラデーション

投稿の句

●一般（三十三句）

納税のすべて終へて 秋日和
内科すみひと安心や 秋日和
公園に 犬の連れ人 秋晴る
数字遊びに 挑戦するや 夜長かな

日野原 志津江

秋晴や 娘入籍した電話

高橋 洋子

八十神の 籠れる森に 龍田姫

武居 正次

神輿庫や 公孫樹高き 村社

平和の像 抱かれた 幼子の目 すき透り

秋空や 巨木に そびえし ライブラリー

山田 常雄

平和の灯 消えずに 銀杏舞う

平和の灯 忘れ時と ゆらぐ火に 幼子の顔

平和の灯 かげろう ゆらぎ 池に 写す

古賀 のり子

金もくせ 香りで 見つけ ほっとかな

まち歩き ハロウィン 目にし ワクワクと

花みずき 色づく 葉っぱ こちよし

久田 恵津子

枯れ草に せみの 抜け殻 秋深し

七色に 心うきうき 秋の花

松本 加代美

金木犀 香り 楽しむ 神社猫

秋吟行 さがすは ネタより 飲屋なり

菊川 雄二

みこし庫で 一年 眠り 秋祭り

平和の灯 そつと 見守る 池もみじ

吉田 誠

●健友旅（十一句）

バスの旅窓にうつろう 紅葉画
美術館 外部展示は 紅葉画

榎本 一郎

小春日に 詩と花の絵と 草木湖と

宮川 修一

さわやかや 心添い立つ 絵手紙に

田村 弘浩

秋旅行 人柄やさし 詩人去り

温かく 心に 染み入る 歌のこし

古賀 のり子

にじみ出る 人柄やさし 天にめされ

古賀 のり子

バスハイク 友と ゆられし 秋の顔

留守番の 友におみやげ 拾う秋

久田 恵津子

車中 あたたか 草木湖に 落葉飛び

茂木 良一

旅樂し 赤城の山は 空高く

田中 範行

従来は、各回の俳壇での発表は一般・旅行それぞれ点の投稿として参りましたが、複数の作品の発表が可能となりました。まだ投稿されたことのない皆様、半年に一点、できましたら、毎月一点の投稿をしてみませんか。会報部では多数の投稿をお待ちしております。

健友俳壇は常時受け付けをしています。一般の句、5月31日までの提出分を会報7月号に掲載、11月30日までの提出分を会報1月号に掲載予定です。 会報部